船井総研ＨＤが授賞式

サステナグロースカンパニーアワードをヤブシタＨＤ受賞

船井総研ホールディングスは8月20日、東京都港区のグランドプリンスホテル新高輪で、「サステナグロースカンパニーアワード２０２６」の授賞式を開催した。同アワードは、持続的な成長を実現し、社会や国家にも良い影響を与えられる企業を表彰している。今回、エントリー企業約1万2千社の中から、特に優れた12社の授賞を決定。大賞は井村屋グループ。空調・冷熱分野では、『M&A／事業承継賞』でヤブシタホールディングス（本社・北海道札幌市、社長＝森忠裕氏）が受賞した。

1963年創業のヤブシタは、2008年に森忠裕氏が社長就任後、空調・冷熱部材メーカーを中核に据えながら「非親族承継」を重ね、設備工事業やエネルギー販売など、多角的に事業を拡大。今では売上高110億円、グループ19社に成長した。成長を支えているのは、異業種企業が互いの強みを持ち寄り、新価値を創出する「機能融合型グループ経営」だ。船井総研ＨＤは『人的資本こそが中長期の経営基盤』という哲学に基づき、異分野や異なる役割を経験させる独自のジョブローテーションを通じて、変化に強く経営視点を持つタフなリーダーを継続的に輩出。非親族への事業承継の再現性を高め、人材育成を推進力に力強い成長を続けている」と評価している。

今年4月には過去最大規模の事業承継として、日本メディックス（社長＝津瀬保彦氏、本社・千葉県）をグループ化。創業50年以上の歴史を持つ医療機器メーカーであり、全国に拠点を展開し、従業員は約100名。これによりグループの人員は250名を超えた。日本メディックスは「2年目の黒字化」を目指していたが、足元では7月単月で早くも黒字化を達成。8月には、ヤブシタの東京支店（港区芝）と同じビルに、日本メディックスのショールームも整備した。

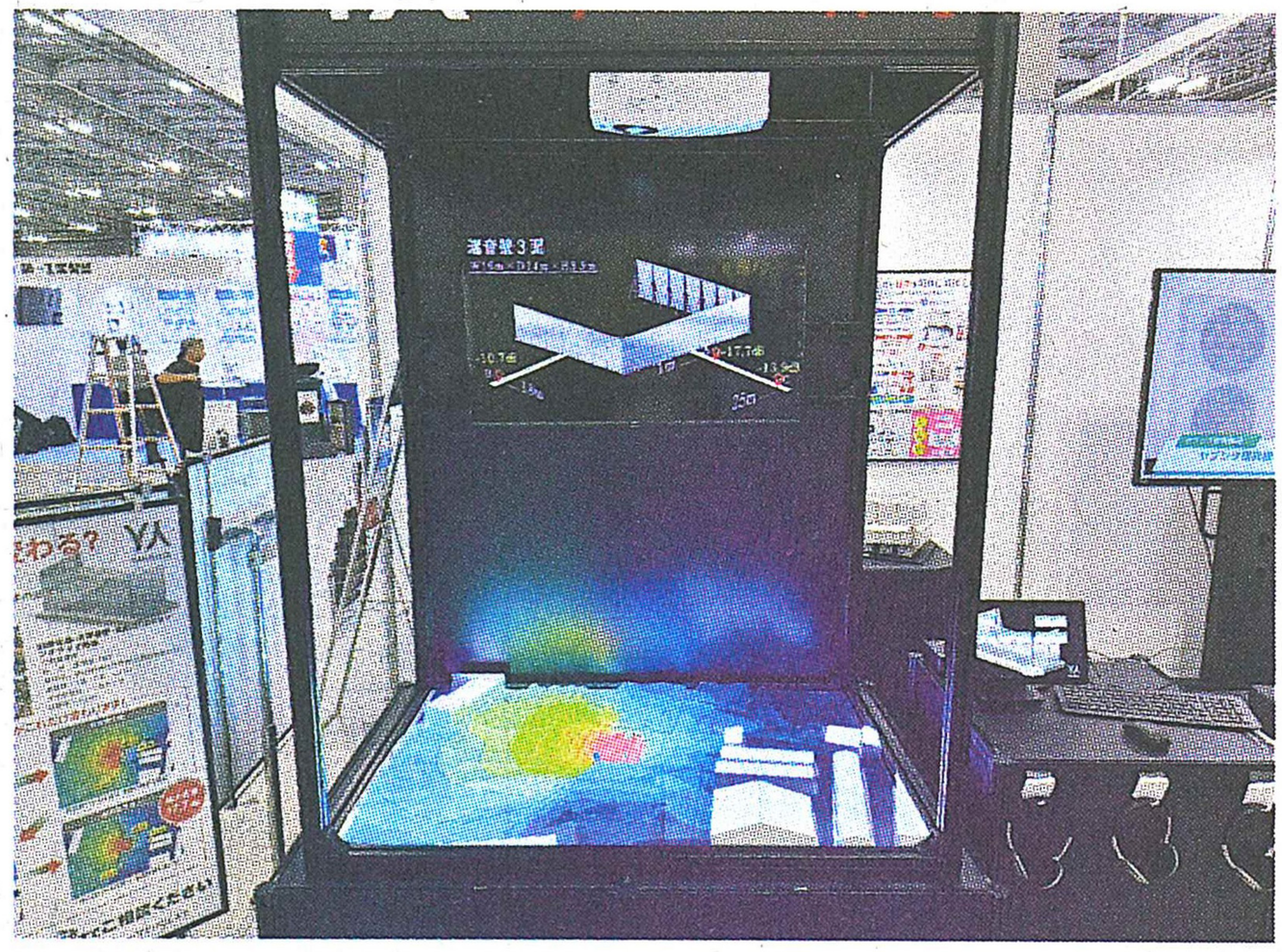
ヤブシタグループはＡＩの活用にも熱心。ＡＩを実装したロボットによる「フィジカルＡＩ」で次なる成長を見据える。



授賞者ら。前列左から２人目が森社長

遮音効果を見える化

騒音対策展でヤブシタグループ



空調・冷熱部材メーカーのヤブシタ（社長＝森忠裕氏）を中心とするヤブシタグループは、7月15～17日まで東京ビッグサイトで開催された「第5回東京　騒音・振動対策展」に出展し、騒音対策を視覚的に理解できる展示を行った。

ブースでは、グループ会社の技術を用いて「騒音シミュレーション」と題した体感型模型制作を行うウェザーニュースが、白い街並みの模型にプロジェクターから光を照射し、騒音発生源を中心に広がる騒音の大小を光の色で見える化した。ここに、ヤブシタの遮音壁がない場合、1面を導入した場合、2面を導入した場合、そして3面を導入した場合、騒音がいかに抑えられるかを光の色で表現した。壁面に投影された遮音壁の効果を紹介する動画は、グループのAIデザイン会社・ウールが制作した。

